

## 第4章

### 拠点施設における整備方針

## 第1節 重要管理拠点

市内の桜の拠点のうち、歴史・景観・利用といった観点から特に重要と考えられる拠点を選定し、市内に4か所の重要管理拠点を設定しています。

これらの拠点の桜は、古いもので植樹後70年以上が経過し、樹勢の衰えが目立ちます。市内を代表する桜の名所にふさわしい拠点を維持管理していくため、樹勢の回復や新たな桜の植樹などの計画及び実施の検討を行います。

### 1 平和通り

JR常磐線日立駅から国道6号まで、延長約1kmの両側に植樹された約120本のソメイヨシノによる桜並木です。かみね公園と合わせて、日本のさくら名所100選に認定されています。

### 2 かみね公園

北関東有数の規模を誇る動物園や遊園地等を備えた、本市を代表する観光施設です。昭和20年代後半から桜の植樹が始まり、現在では約1,000本の桜が植樹されています。平和通り・かみね公園さくら名所100選委員会により、定期的な桜の保全作業が行われています。

### 3 鞍掛山

本市の桜のルーツとなった、オオシマザクラの子孫など、約520本の桜が現在も息づく貴重な里山林です。鞍掛山さくら100年委員会により、定期的な桜の保全作業が行われています。

### 4 十王パノラマ公園

十王ダムを見下ろす高台にある公園です。35種約400本の桜が植樹されていて、高さ20mのUFO型展望台からは、眼下に十王ダムと湖を満開の桜越しに眺望することができます。

#### 【コラム】



#### ■日本のさくら名所100選

平成2（1990）年に公益財団法人日本さくらの会によって、選定された日本各地の桜の名所地です。関東地方からは上野恩賜公園（東京）・桜山公園（群馬）など20か所が選ばれています。

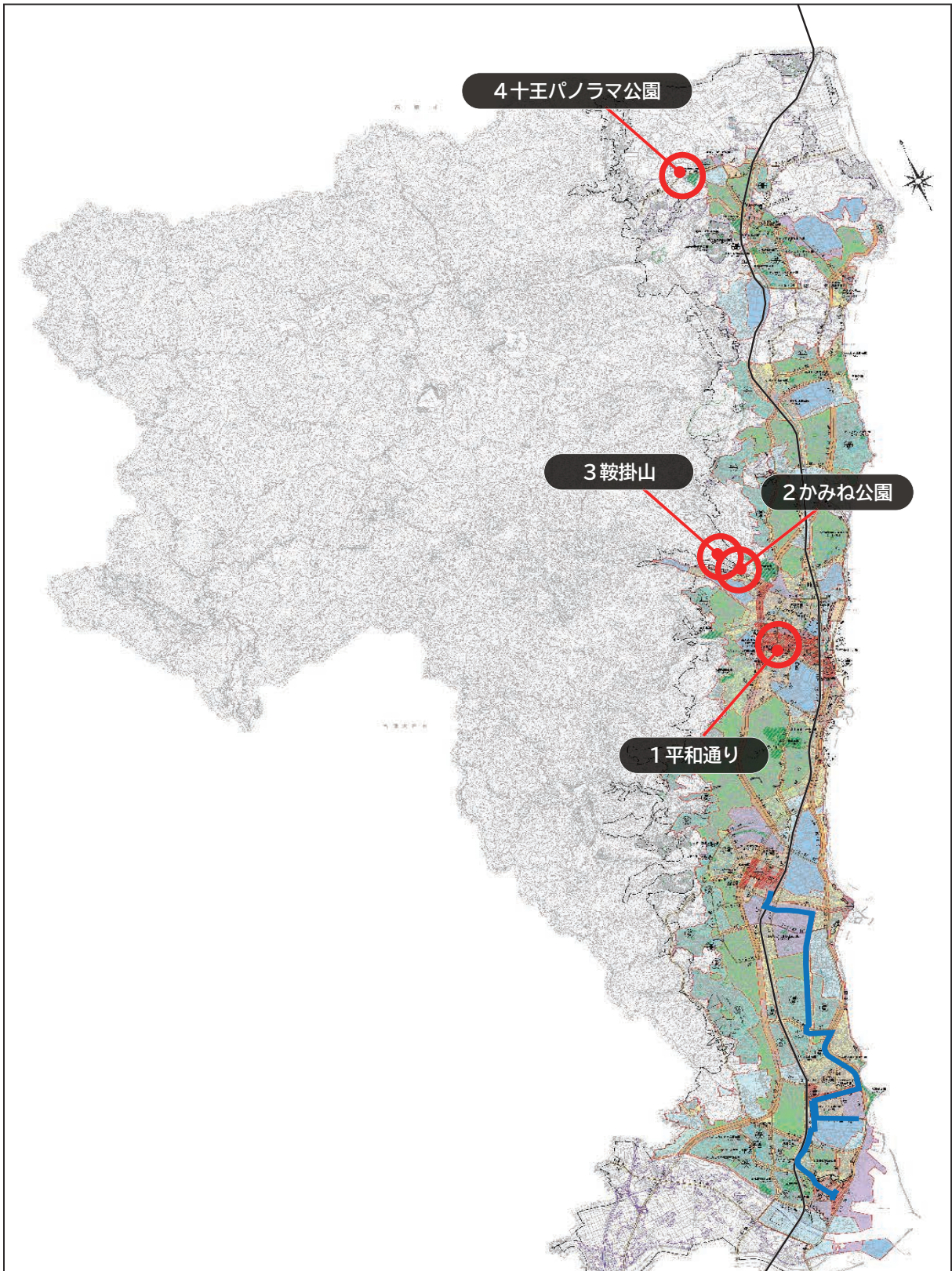


図18 重要管理拠点位置図

## 1 平和通り

### (1) 概要

平和通りに最初に植えられた桜は、昭和26年4月3日、当時の友末洋治茨城県知事と高嶋秀吉日立市長が記念植樹したものです。同年、国道6号からけやき通りまでの約600m区間の両側に75本のソメイヨシノが植樹されました。その後、昭和52年には日立駅とけやき通りの間の約330m区間にも植えられ、延長約1km、合計115本（当時）の桜並木となりました。

植樹後約40～70年が経過した現在では、桜並木が威容を誇り、「見応えがある」との理由から、桜鑑賞地として本市内で最も利用者が多い拠点となっています（令和3年度市民アンケート結果）。一方で、桜の老木化に伴い、樹勢が衰退してきており、枯れ枝や幹の腐朽が散見される状況となっています。

桜並木の将来への継承を目指し、平成29～30年度に実施された現地調査を基に、令和元年度に「平和通り桜更新実施計画」を策定し、計画期間を30年とし、桜の更新（植替え）を実施していくものとしています。



日立駅前からの桜並木



高嶋市長の植樹風景（昭和26年）



平和通りの桜並木（昭和26年頃）

(2) 現状と課題

ア 現地調査の実施概要

整備計画の検討を行うに当たり、必要となる情報を収集することを目的として、現地調査を実施しました。調査項目は以下に示すとおりです。

表3 現地調査項目

No.	項目	調査対象	概要
①	簡易診断 ・外観診断 (平成29年度実施)	若年木※を除く桜 (96本)	<p>■簡易診断 幹内部の材の均質性を計測し、健全度を診断</p> <p>■外観診断 樹木医により、桜の各部を観察。枯れや空洞、腐朽の有無などから総合的に健全度を診断</p>
②	精密診断 (平成30年度実施)	①により「不健全」「やや不健全」と判定された桜	樹木断面をレーダーで測定。幹内部の腐朽状況を調査し危険度を診断
③	植栽環境の確認 (平成30年度実施)	全ての桜(128本)	根上りや隣接木との接触状況、幹間距離等を確認

※平成8年度以降に植栽された桜

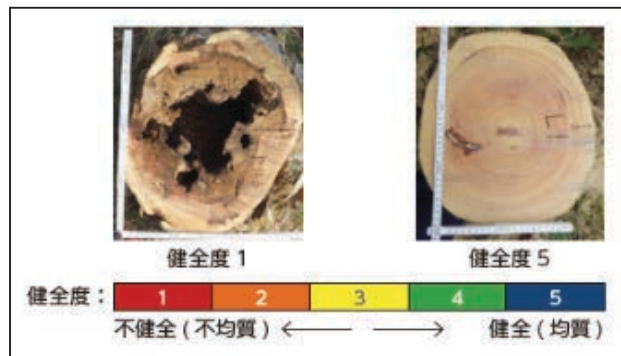


図19 簡易診断結果イメージ

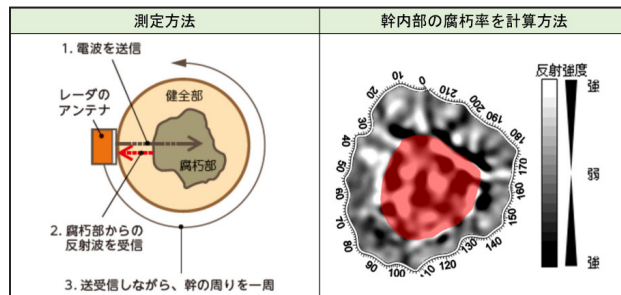


図20 精密診断方法イメージ

### (3) 課題の整理

現地調査の結果を踏まえ、平和通りの桜の再整備に向けた課題を整理します。

#### ア 健全度の低下

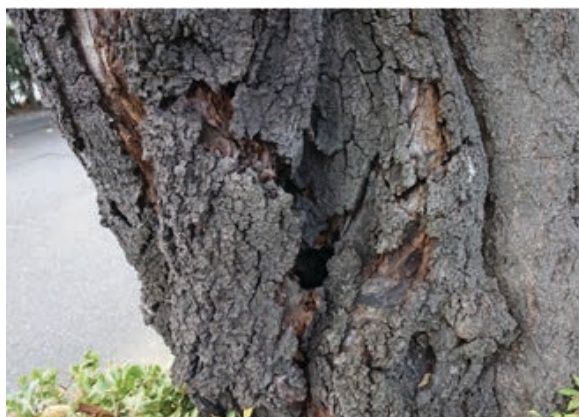
- (ア) 若年木を除いた調査対象96本のうち約半数の50本、全体の39%が「やや不健全」「不健全」であり、ほぼ全域に分布しています。
- (イ) 植樹後約40～70年が経過し、老木化が進行しています。



樹勢が衰え、健全度が低下した木

#### イ 倒木・落枝の危険

- (ア) 「不健全」「やや不健全」と診断された桜の多くに、幹・枝・根株で腐朽・空洞が発生し、倒木や落枝の危険が増大しています。
- (イ) 樹勢が良好でも、腐朽・空洞の発生した部分は健全木に比べ強度が低下し、強風などによる倒木・落枝の危険も増大しています。



腐朽の侵入を受けた木（倒木などの危険性が高い）

## ウ 生育環境の悪化

### (ア) 根系と道路施設との競合

- ・ 根が植樹帯いっぱいになり道路施設との競合（植樹帯のブロックを押し出すことによる破損、根が周囲の舗装の下に潜り込み、舗装の不陸が生ずる等）が発生しています。

- ・ 縁石の破壊や歩道や車道の舗装の持上げが顕著になると補修が必要になりますが、根を切断すると、樹木を支える力が弱くなり、水分や養分の吸収が低下し衰退につながることや、切断面から腐朽するおそれがあります。



根による植樹帯ブロックの破損

### (イ) 根系上の土壌の堆積

- ・ 樹木周りの草木の土が根系上に堆積し、根の呼吸が妨げられ、生育に悪影響を及ぼしています。



根の根元が低木に覆われている

### (ウ) 近接する樹木の影響

- ・ 大きくなった老齢木の枝張りにより、隣接する若い木の生長に悪影響を及ぼしています。



老齢木（左）により枝の伸長に影響が出ている若い木

**(4) 整備方針**


簡易診断・外観診断及び精密診断に基づいた健全度評価の結果や、植栽環境の調査結果などを踏まえて、計画方針を整理します。

**ア 整備の考え方**

整備計画の検討に当たっては、以下の3点を基本的な考え方としました。

- 1 **危険木に対して迅速に対応し、更新する**  
 交通機能への障害となる倒伏の危険が大きい桜（危険木）を、危険度に応じて、早期に優先的に撤去します。なお、危険度については、簡易診断・外観診断及び精密診断の結果から評価します。
- 2 **並木景観を維持しながら更新を行う**  
 危険木の対応が完了した後は、定期的に危険度、健全性を経過観察しながら順次更新を進めます。
- 3 **計画期間中は・長期的な並木の景観再生とする**  
 桜の生長速度を考慮すると、更新により新たに植樹した桜（更新木）が車道をほぼ被覆するまでには30～40年の期間が必要と考えられます。  
 平和通り桜更新実施計画では、計画当初の更新木が生長し、並木景観が再生されるまでを計画期間として検討します。

表4 整備計画スケジュール

年	計画期	主な項目	備考
2018	計画策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険木の抽出</li> <li>方針の策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に危険度の高い木の更新</li> </ul>
2019～2023	第Ⅰ期	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険木の更新</li> <li>植栽環境の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険度の高いものから更新</li> </ul>
2024～2028	第Ⅱ期	<ul style="list-style-type: none"> <li>3～5年毎に診断 →危険木の抽出</li> <li>危険木、衰退木を適宜更新</li> <li>更新木の生長・適切な管理による並木景観の再生</li> </ul>	
2029～2033			
2034～2038			
2039～2043			
2044～2048		<ul style="list-style-type: none"> <li>初期植栽木の更新がほぼ完了</li> <li>計画の検証・見直し</li> </ul>	
2049～		<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の更新</li> </ul>	



### イ 30年後の更新完了イメージ

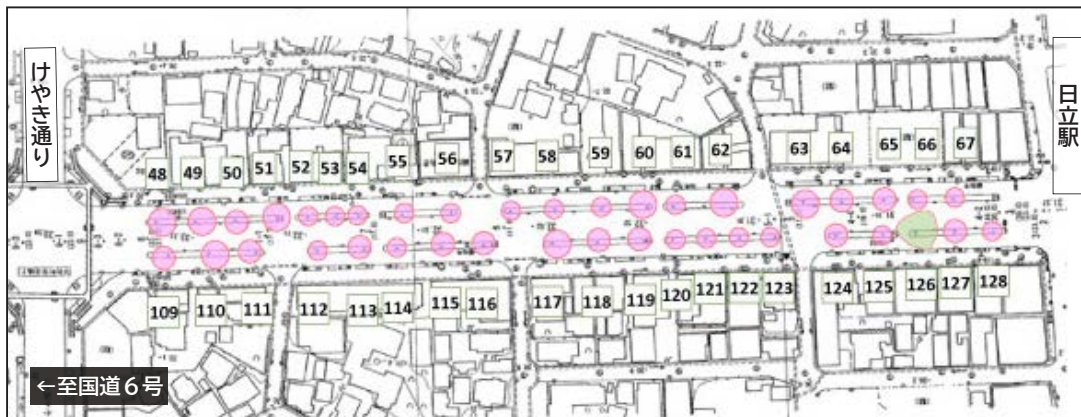
危険木や植栽間隔を考慮し、更新が完了した樹冠被覆イメージを以下に示します。



国道6号～市民会館通り



市民会館通り～けやき通り



けやき通り～日立駅

- 平成8～29年 更新完了木
- 平成30年～ 更新予定木

図2-1 植栽計画図（更新完了後の樹冠被覆イメージ）

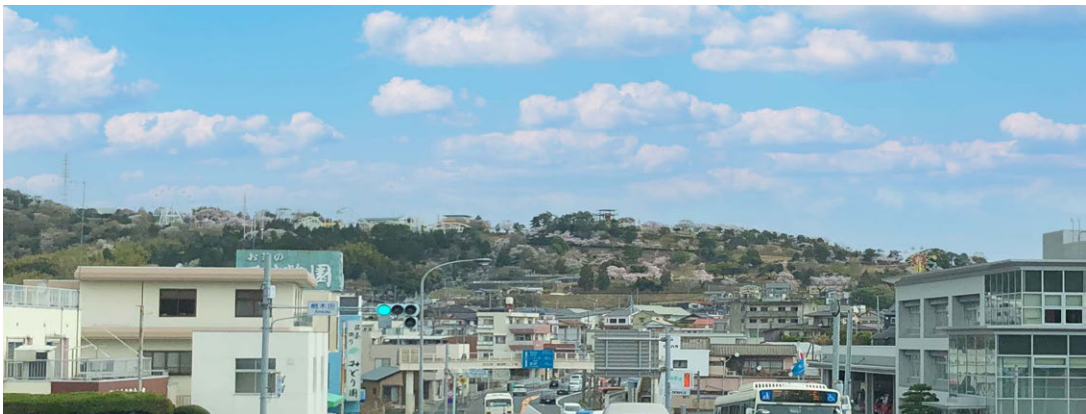
## 2 かみね公園

### (1) 概要

かみね公園は、昭和28（1953）年に開園した総合公園です。本市の中心部に位置し、園内の各所から市街地や太平洋、周囲の山並みの眺望を楽しむことができます。敷地面積約15haの園内には動物園と遊園地を有し、周辺にはレジャーランドや温水プールなども設置されていて、現在では市内外から年間を通して約60万人が訪れる総合レクリエーション施設です。

春には約1,000本の桜が咲き誇り、平和通りとともに日本の「さくら名所100選」に選ばれた桜の名所地となっています。

しかし、供用が開始されてから約70年が経過しており、桜は個体同士の過密化や他の樹木によって受ける日照障害、養分の不足等により、樹勢衰退などが心配されています。



国道6号からの眺望

### 【コラム】



■平成10（1998）年にまとめられた調査報告書「日立のさくら」によれば、昭和28（1953）年の開園時に植樹されていた南斜面のソメイヨシノは、約45年後の平成10年には既に老木や枯死が目立つようになっていた事が分かっています。（写真：「日立のさくら」掲載写真）

## (2) 現状と課題

### ア 環境と樹勢

- (ア) 入口付近の標高40mから展望台のある最高地点の標高120mまで、80m程度の高低差があり、公園全体が海風の影響を受けやすい地形となっています。
- (イ) 頂上展望台付近は、岩石混じりの地山で表土（桜の有効土層）が薄いため、乾燥しやすく貧栄養な土壌です。
- (ウ) 丘陵斜面地のため、全体的に養水分及び土壌自体が流れやすい環境であり、実際に根系が露出した桜が多くみられます。
- (エ) 桜よりも貧栄養地に耐える松が優勢となる状況が見られます。



頂上展望台付近の現況



衰弱した桜

- (オ) 園内の多くの品種で樹勢の衰えが目立つようになっていましたが、海風の影響にも耐える、健全なオオシマザクラの個体が多く見られます。
- (カ) 整備開始年度から考えると、桜は最も古いもので樹齢70年程度です。一般的に40年を過ぎた頃から桜の樹勢は鈍化し、その後の生育は環境と管理の状況に大きく左右されるようになります。



強風の影響がみられるソメイヨシノ



健全なオオシマザクラ

## イ 景観

- (ア) 展望台周辺からの眺望は海と市街地が一望できる最も重要なビュースポットですが、松が桜より大きく生長しているため、桜の存在感が薄れています。
- (イ) 動物園や遊園地から頂上部への移動経路には、樹勢の悪い桜が多く、魅力ある桜が少なくなっています。



園路沿いのソメイヨシノ



園路沿いのソメイヨシノ

- (ウ) 頂上駐車場周辺はサトザクラが多く植樹されていて、ソメイヨシノの後に花見が楽しめる空間となっています。
- (エ) 吉田正音楽記念館西側には、平坦な広場やつつじ園が広がり、1月中旬頃から3月上旬頃まで楽しめる、極早咲きの日立紅寒桜がまとまって植樹されているため、公園の新たな魅力となる可能性を秘めています。



つつじ園の状況



平坦な面が広がる広場

- (オ) 動物園の桜は、動物園の魅力を向上させることから、景観に配慮した植樹の見直しや、良好な維持管理も重要です。
- (カ) 国道6号の市役所付近など、遠景でかみね公園を眺望できるスポットが存在します。そこからの景観に配慮した植栽計画を検討することが必要です。

### 【コラム】

#### ■ サトザクラとは

サトザクラは“里の桜”の意味で付けられた園芸品種の総称で、オオシマザクラがもとになって、それにヤマザクラなどの他の桜が自然交雑したり、人為的に交配が行われた結果生じた、極めて多彩な変化に富む品種群です。

### (3) 課題の整理

公園の現況を踏まえ、かみね公園の桜の再整備に向けた課題を整理します。

#### ア 健全度の低下

- (ア) かみね公園の桜は樹勢が衰退したものが多くあり、落枝や倒木等で来園者に危険をもたらすばかりでなく、景観的にもかみね公園の魅力を低下させます。
- (イ) 桜の健全度の向上を目指し、樹勢回復を促す管理や植え替えなどを行い、桜の花つきを良くする必要があります。

#### イ 魅力的な桜の演出

- (ア) かみね公園には様々な品種の桜が植樹されていますが、桜の持つ開花や生育の特性を生かした演出方法を検討することが必要です。
- (イ) 来園者が思わず目を奪われるような魅力的な桜の演出が必要です。



頂上駐車場広場の日立紅寒桜

#### ウ 市民協働の取組みを継続・拡充

- (ア) かみね公園の桜は、市民の献身的な活動によって植えられ、育まれた歴史があり、現在でも平和通り・かみね公園さくら名所100選委員会を中心とした市民参加型の施肥作業や植樹祭等が実施されています。これらの市民参加型の活動を継続するとともに拡充し、桜に愛着を抱いたり誇りに思う意識につなげていくことが必要です。

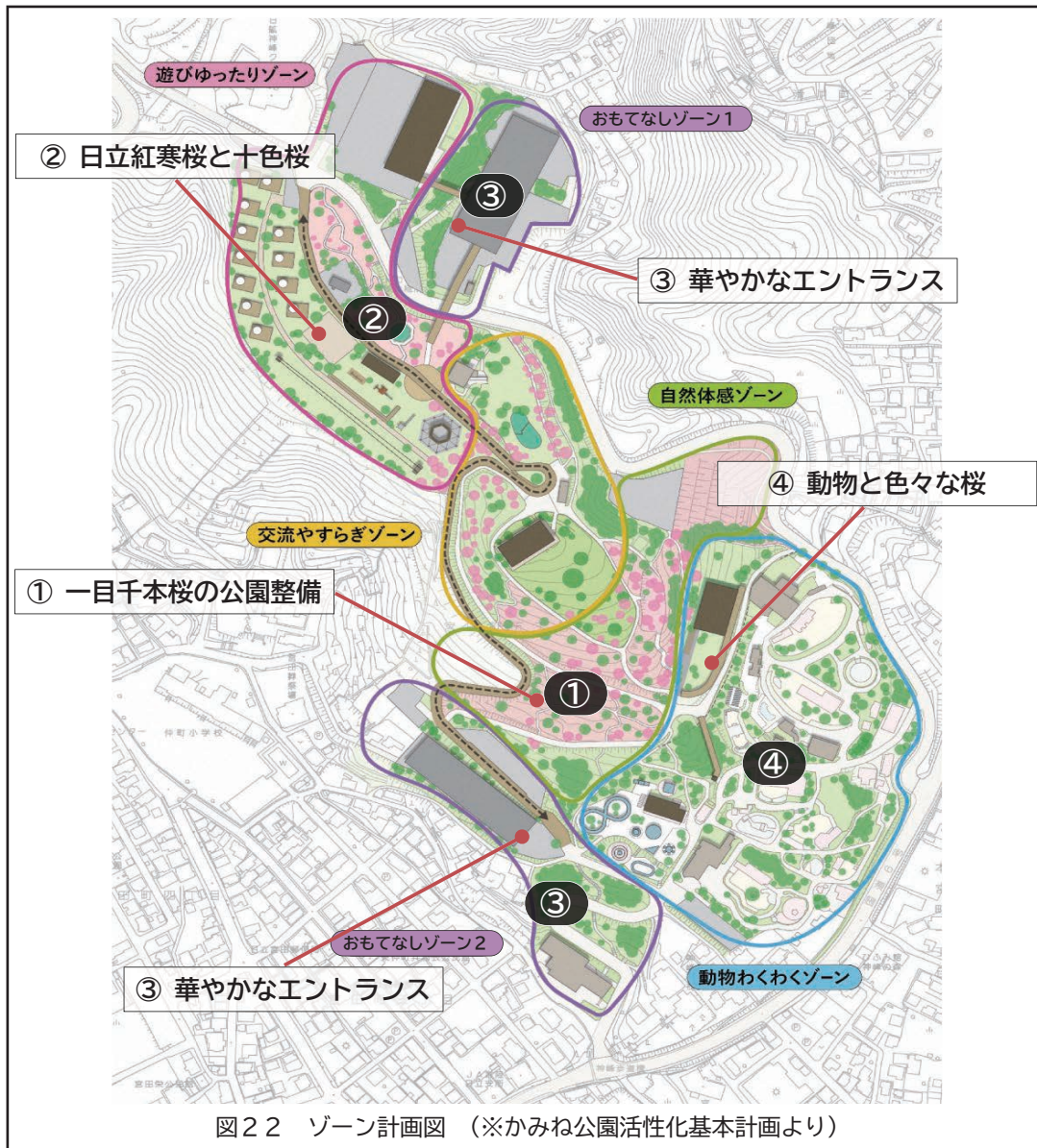


市民参加型の施肥作業

#### (4) 整備方針

令和3年9月に策定した「かみね公園活性化基本計画」との整合を図りつつ、公園の課題を踏まえ、次の4つの整備方針を軸とした計画を検討します。

- ① 「ひとめせんぼんざくら一目千本桜の公園整備」
- ② 「日立紅寒桜と十色桜で長い期間楽しめる桜の演出」
- ③ 「華やかなエントランスで魅力づくり」
- ④ 「動物と一緒に色々な桜を楽しもう」



### ①「一目千本桜の公園整備」

一目で千本の桜を見ることができ桜の名所を「一目千本桜」と称することから、かみね公園でも、国道6号などから眺望できる場所や頂上展望台広場の周辺を重点的に整備することで、日本の「さくら名所100選」にふさわしい整備を行います。  
(交流やすらぎゾーン・自然体感ゾーン)



図23 一目千本桜のイメージ

### ②「日立紅寒桜と十色桜で長い期間楽しめる桜の演出」

本市固有の桜である極早咲きの日立紅寒桜を吉田正音楽記念館の西側にあるつつじ園や北駐車場周辺に植樹し拠点化するとともに、公園北側に位置する市道沿いにも植樹することにより、本市の最も早い春の訪れを演出します。

また、頂上駐車場周辺にはソメイヨシノよりも開花時期が遅く、彩り豊かなサトザクラを植樹し、多様な桜が長く咲く公園であることを印象付けます。

(遊びゆったりゾーン・おもてなしゾーン1・交流やすらぎゾーン)



図24 日立紅寒桜の拠点イメージ

③「華やかなエントランスで魅力づくり」

来園者が最初に利用する空間となるため、樹勢の良い桜が花付きを保ちながら華やかに咲いて、来園者を迎える魅力づくりを行います。  
 (おもてなしゾーン2)



図25 エントランス空間のイメージ

④「動物と一緒に色々な桜を楽しもう」

動物と桜を同時に写真に収める事が出来るスポットを中心に、桜の整備や管理等を行います。樹勢の衰えている桜は更新するとともに、思い出と印象に残るような、華やかで快適な空間を演出します。  
 (動物わくわくゾーン)



図26 動物撮影スポットのイメージ (ゾウ舎)

表5 整備計画スケジュール

年	2022～2023	2024	2025	2026～2031
実施内容	基本計画	基本設計	実施設計	再整備



### 3 鞍掛山

#### (1) 概要

鞍掛山は、標高247.6mの小高い山です。なだらかな山裾の丘陵地には、かみね公園が広がっています。

本来は、常緑樹林の山であったと推測されていますが、煙害により大きな被害を受けました。煙害で裸地化した周辺山林の自然を再生する目的で始まった、煙害に強い植物の植林により、現在も約520本のオオシマザクラやヤマザクラ等が残る場所となっています。

本市は平成17年に「環境都市・日立」を宣言し、「私たちは、環境の歴史的シンボルであるさくらを愛し、美しく快適なまちを創ります。」とさくらを通して環境問題に取り組む姿勢を明らかにするとともに、第3次日立市環境基本計画では、ひたちらしい自然環境の保全の取組として、鞍掛山のさくらの山づくりが位置付けられています。

また、平成18年には桜の山づくり研究会により「桜の山づくり研究会報告書」がまとめられ、現在もそのコンセプトに基づき、市民・企業・行政の協働で桜の保全を進めています。

桜を本市の産業・歴史・文化の遺産として、100年後も、鞍掛山を市民が憩える桜の巨木のある山として、整備や管理を進めていくことが必要です。



かみね公園展望台から望む鞍掛山

#### 【コラム】

##### ■ 二次林・里山林とは

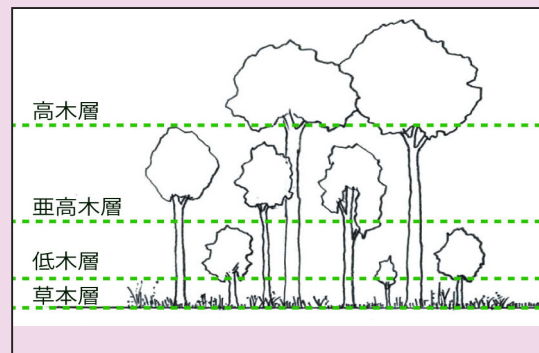
伐採や風水害、山火事等により森林が破壊された跡に、土中に残った種子の生長などにより成立した森林は、「二次林」と呼びます。また、都市域と原生的自然との中間に位置し、薪炭材利用などの様々な人間の働きかけを通じて環境が形成されてきた半自然の森林を、「里山林」と呼びます。

**(2) 現状と課題****ア 植生**

- (ア) 煙害対策として、大正時代から昭和時代初期に行われたオオシマザクラやヤシャブシなどの植林事業によって、山は緑を取り戻しましたが、戦時中から戦後直後は薪炭材としてこれらの樹木が伐採されていました。
- (イ) 現在、高木層は本来の自然植生のスダジイやアカガシ等の常緑樹も見られるものの、植林事業によって植えられたアカマツ・ヤシャブシ・オオシマザクラが多く見られます。しかし、アカマツは松枯れによって減少しており、ヤシャブシは最大サイズに達していることから、いずれも今後はさらに枯損が進行すると考えられています。その跡地には同じ樹種は見られておらず、先駆種の落葉樹が多く出現しています。  
サクラ類は自生のヤマザクラとカスミザクラ及び野生化したオオシマザクラの3種が見られます。
- (ウ) 低木層には常緑種のヒサカキが多いことが特徴で、低木層の被圧によって、草本層が発達していない箇所も見られます。アカマツ林の明るい林床などではオオバギボウシ・チゴユリ等が見られ、関東近辺の二次林に一般的な林床植物が多く見られています。
- (エ) 一部にはヤマツツジやドウダンツツジ等が植栽されています。

**【コラム】****■ 森林の階層構造**

発達した森林では、垂直方向の明るさや湿度の違いに応じた植生の階層構造が見られます。一般的に林床（地表層）、草本層、低木層、亜高木層、高木層（林冠）に区分されます。



森林の階層構造模式図

### (3) 課題の整理

現況を踏まえ、鞍掛山の桜の山づくりに向けた課題を整理します。

#### ア 落葉広葉樹の繁茂

- (ア) 現在、多く見られるアカマツやヤシャブシの枯損が進み、桜以外の先駆種の落葉樹（ホオノキ・ウワミズザクラ・アカメガシワ・ミズキ等）が増加しています。
- (イ) 草刈りなどの管理作業が長期間実施されてこなかったため、本来の自然植生である常緑広葉樹（スダジイ・アカガシ・シロダモ・タブノキ等）が増加し、被圧によりサクラ類が減少しています。
- (ウ) 低木層に常緑種が増加し、草本類が減少しています。

#### イ 桜の山づくりを指導する人材の育成

- (ア) 桜の山づくりに向けて、整備活動を実施するに当たり、残すべき木（幼木）や草本層等の保護が出来る人材が不足しています。

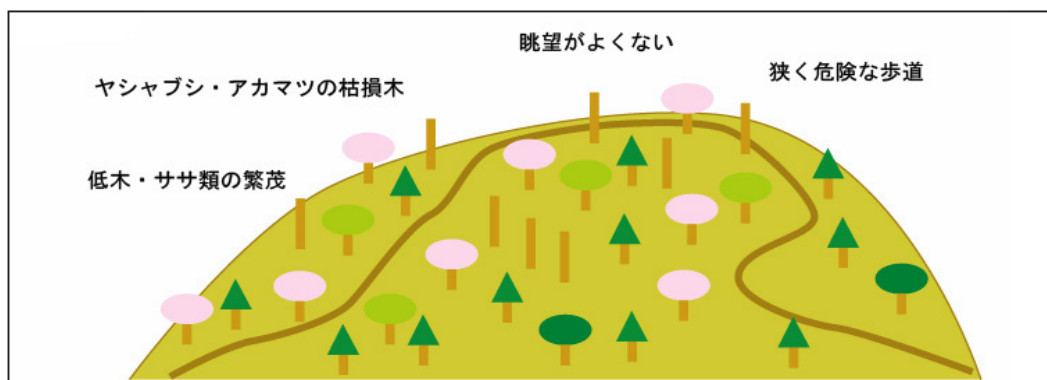


図27 現状の課題図

#### 【コラム】

##### ■ 植生の遷移

森林が伐開された跡地などでは、最初に光を好む植物がその環境に適応して旺盛に生育します。この種は、落葉広葉樹に多く、桜もこの種類に含まれます。落葉樹林が生長し、林床に光が届きづらくなると、今度はその環境に適応して暗所に耐える植物が多く生育します。こうして、関東地方では最終的には常緑広葉樹の森林が出来上がります。

なお、薪炭林や里山林は、人の手が入った二次林です。これらは、遷移の途中の状態であるため、放置された場合は自然の状態に徐々に戻っていきます。

#### (4) 整備方針

##### ア 整備のコンセプト

### 「市民参加の世代を越えた22世紀のさくらの山づくり」

「市民参加」には市民・企業・行政の協力と連携、「参加」には保護と利用、「世代を越えた」には100年以上継続していく、「22世紀」には巨桜の山に育成するという決意と期待を付与し、整備コンセプトを定めました。

桜の山とするために、新たに桜を植えることも考えられますが、栽培品種を数多く植林することは、植林後に細やかな管理が必要となることから、山林である鞍掛山では適切ではありません。原則として桜の植林は見合わせ、現在ある桜を生かして整備を計画します。

##### イ 整備の考え方

- (ア) 現在生育している桜を幹周3m以上の巨木に育成するため、枯損木の処理や下刈りによる草地を維持しながら、100年後に200本の桜の巨木がある山づくりを目指します。

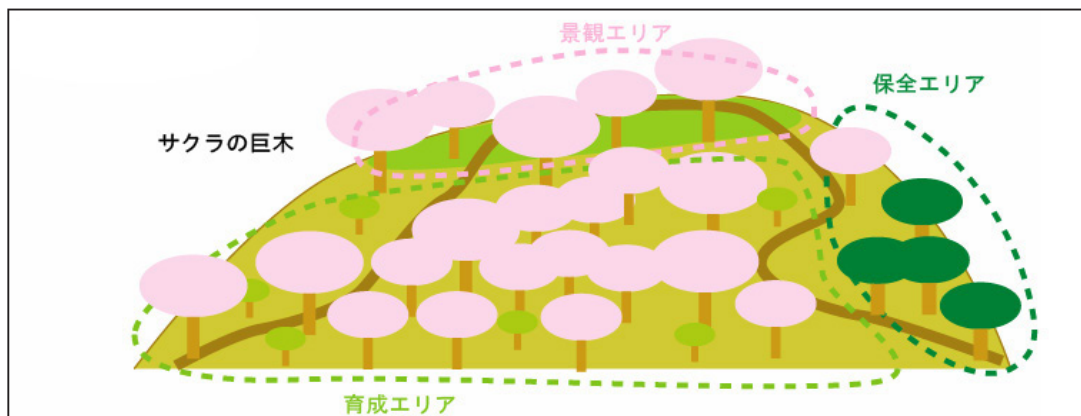


図28 100年後の山のイメージ

- (イ) 地域を基軸としながら、市民・企業・行政が協働し、進めていきます。
- ・ 管理を重視した市民参加型の桜の山づくり
  - ・ 新たな触れ合いと利用を掘り起こしながら、保全活動を継続（利用と管理の一体化）
- (ウ) 桜の保護だけでなく、桜の利用も積極的に行い、森林の保全と利用が一体となった活動にします。
- ・ 市民が憩える桜の山づくり（お花見空間の場）
  - ・ 市街地からの遠望のよい桜の山づくり（かみね公園と連続した桜の山）
  - ・ 本市ならではの海と桜が調和した桜の山づくり（新名所づくり）

## ウ ゾーニング

鞍掛山は細かな地形が入り組んでおり、全体を一様に管理することは難しいため、以下の3つのエリアに分けて考えました。

### ① 景観エリア

- 山頂部などは、景観エリアとして、レクリエーション活動が可能な開放的な広場及び歩道を整備して、シンボルとなる巨木を育成します。



山頂部の眺望（海側）



山頂部の眺望（山側）

### ② 保全エリア

- 急傾斜地、崩落危険地は保全エリアとして利用の対象から外し、引き続き、安全対策を講じていきます。



急傾斜地

### ③ 育成エリア

- 上記以外の林地（大部分）は、育成エリアとして、桜が混じる落葉広葉樹二次林として管理を行います。また、伐採・更新によって桜の割合を増加させ、桜の巨木を育成します。
- 歩道（ハイキングコース）を軸にして、沿道沿いの整備を優先的に行います。



育成中の桜の巨木  
（ハイキングコース沿い）



図29 ゾーニング計画図

表6 整備計画スケジュール

年	2022～2031
実施内容	景観エリア・保全エリア・育成エリア整備

## 4 十王パノラマ公園

### (1) 概要

「十王パノラマ公園」は、平成5(1993)年に開園した、良好な自然の風景や環境を楽しむことができる公園です。

面積約4.4haの園内には、35種約400本の桜が植樹されていて、サトザクラ系の種類が多いことが特徴的です。また、公園のシンボルとして建設された高さ20mの展望台最上部からは、眼下に十王ダムと湖を満開の桜越しに眺望することができます。

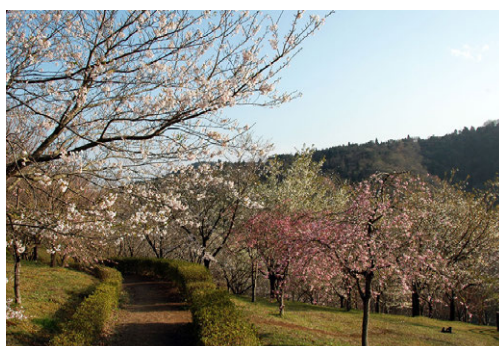
日立さくらまつりでは、平和通り・かみね公園と並ぶ主要会場となっています。



UFO型展望台と桜



十王ダム湖を望む



園内には35種類の桜が咲く

## (2) 現状と課題

### ア 環境と樹勢

- (ア) 十王パノラマ公園は、多賀山地の山麓部の中山間地域に位置しており、標高約150mの頂上広場と十王ダムを望む西側斜面地、スギ林に囲まれた北～東側広場、遊具広場となっている南側斜面で構成されています。
- (イ) 頂上付近は平坦に造成された広場で、表土が欠けた土壌であり、水はけも良くないため、樹勢が悪い状態の桜が多くなっています。また、西側斜面は急斜面で西日が当たり非常に乾燥しやすい土壌と考えられます。
- 北側から東側広場及び遊具広場となっている南側斜面は既存樹林に囲まれています。
- (ウ) 水辺があり、霧が出るような場所の付近ではテングス病が発生しやすく、多くのソメイヨシノがり病しています。また、生長に伴って個体同士の過密化が進んでいるため、日照を求めて樹高が高くなり花つきが悪い状態となっています。



西側斜面地

- (エ) 公園の周囲はスギ・ヒノキ等が植林されています。北東側では、生長の早いスギやヒノキの樹高が高くなって周囲の桜に対して日照を阻害し、桜の樹形や樹勢に影響が見受けられます。



北東側



エントランス

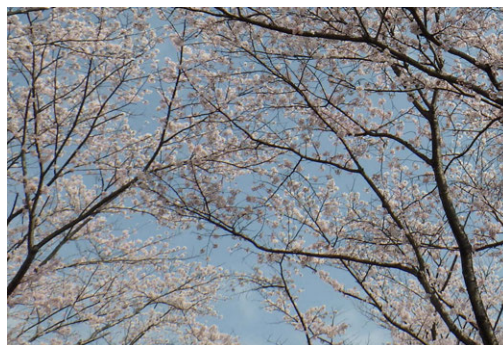


## イ 景観

- (ア) 展望台から南西方向にダム湖を望む眺望が開けていますが、テングス病や樹勢衰退の影響で、樹形が悪化傾向にあります。また、北東方向はスギやヒノキが生長し、海への眺望が遮られています。
- (イ) 園路は両側に並木状に桜が植樹されています。また、桜は全体に下枝高が高く、細く伸びあがった桜が多い状態です。しかし、枝数が少ないので、花付きがややまばらな印象となっています。



園内の植樹状況



開花状況

- (ウ) 南向き斜面に多品種のサトザクラが植樹されており、十王パノラマ公園の特徴的なエリアとなっていますが、補植や樹勢回復などを実施する必要があります。
- (エ) 十王パノラマ公園へのアクセス道路は両側に桜が植樹されていますが、東側は人工林によって日照を妨げられているため、暗い印象となり、樹形も悪くなっています。
- (オ) 公園奥の北東エリアは雑木が多く、フユザクラ等が配植されて、落ち着いた雰囲気のある場所です。南東側は、樹高の高い樹木が多く、木陰ができるため、夏場などは休憩エリアとして有効に機能しています。



公園奥の北東エリア



フユザクラ

- (カ) 東側遊具エリアとの境界線の斜面付近にシダレザクラがまとまって植樹されていて、華やかな雰囲気があります。斜面を下ると周囲の樹木の樹高が高く緑が濃くなり、日照が悪いため、桜の生育には適さない立地となっています。

### (3) 課題の整理

公園の現況を踏まえ、十王パノラマ公園の桜の再整備に向けた課題を整理します。

#### ア 健全度の低下

- (ア) 十王パノラマ公園の桜はテングス病にり病して樹勢を衰退させた桜や枯死した桜が多くあり、落枝や倒木等で来園者に危険をもたらすばかりでなく、景観的にも公園の魅力を低下させています。
- (イ) 生長の良いエリアでは、個体同士の過密化が進んでいるため、日照を求めて樹高が高くなり、花付きが悪い状態となっています。
- (ウ) 桜の健全度の向上を目指し、植栽間隔の改善や樹勢回復、植え替えなどを行い、花付きをよくする必要があります。

#### イ 品種の活用方法の再検討

- (ア) 開園当初は園内に多くの品種を植樹し、多様な桜の景観を演出することを想定していましたが、植樹後約30年が経過した現在では、桜の生育不良等によって景観が維持できなくなりつつあります。
- (イ) 今後は品種の活用方法や景観の演出方法を改めて検討することが必要です。

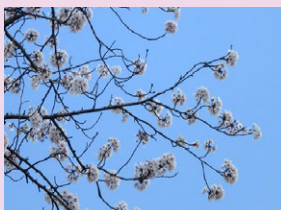


南向き斜面の桜

#### ウ 市民参加型活動の実施

- (ア) 十王パノラマ公園では、他の3つの重要管理拠点で行われているような市民参加型の維持管理作業や植樹イベント等が実施されていません。
- (イ) 桜の名所地を健全に維持管理していくため、また、十王パノラマ公園の認知度や利用を上げていくためにも、市民参加型の活動が必要です。

#### 【コラム】



##### ■花付き

樹勢が悪い桜では枝先の伸びが悪くなり、花が先端にだけ玉状に固まって咲く様子が見られます。このような場合、花数が少なくなり、見応えが悪くなります。

#### (4) 整備方針

公園の課題を踏まえ、次の4つの整備方針を軸とした計画を検討します。

- ① 「一目千本桜の雲海<sup>うんかい</sup>を演出」
- ② 「回遊性のあるお花見広場の整備」
- ③ 「色とりどりのサトザクラが一斉に咲く、錦の桜の丘を創出」
- ④ 「里山に咲く、ヤマザクラを楽しむ」

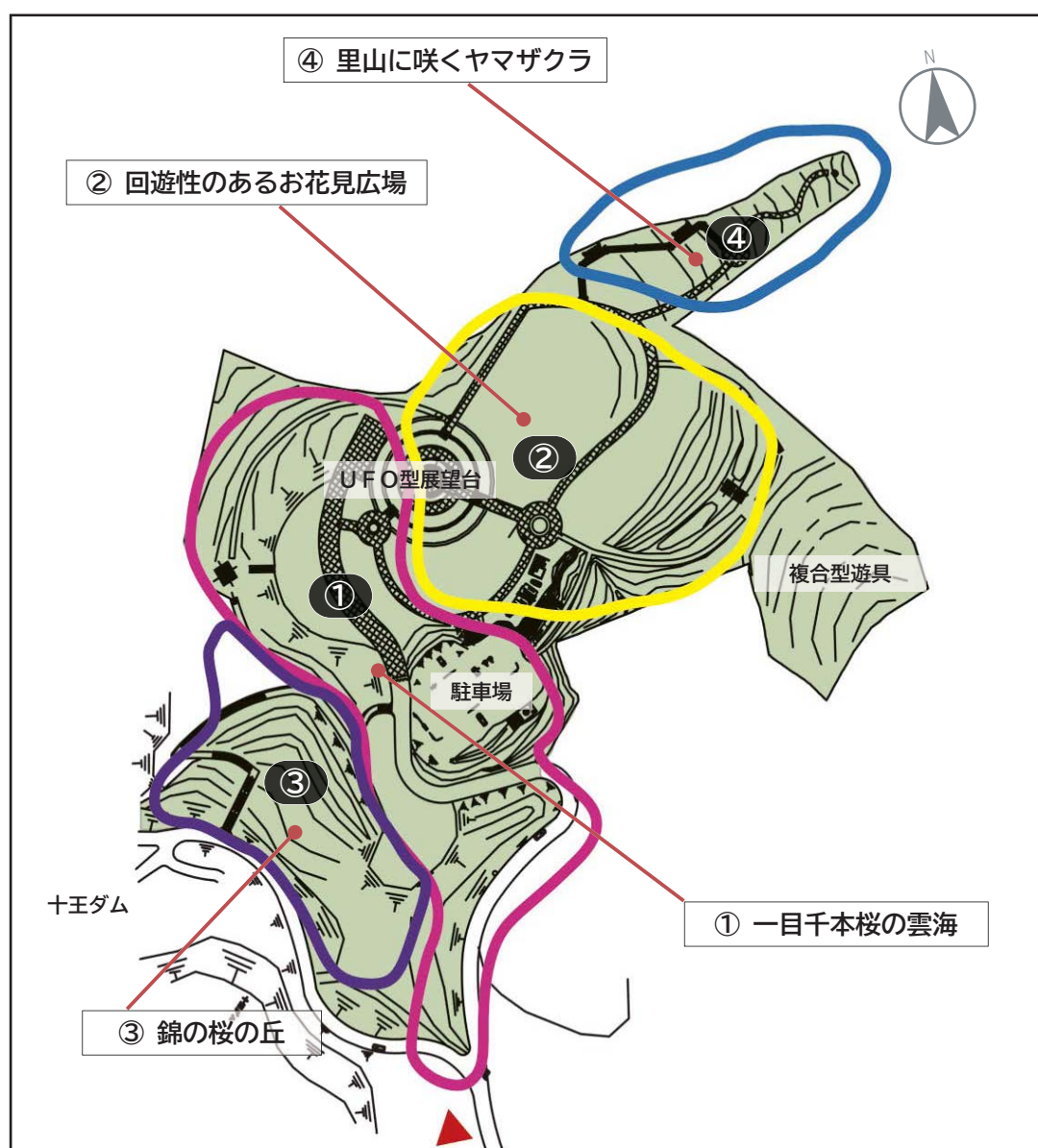


図30 ゾーニング図

### ①「一目千本桜の雲海を演出」

エントランスから展望台へ至るまでを連続的な桜並木として再整備を検討します。展望台に上ると並木の桜を眼下に望めることから、桜の雲海となるよう、桜の樹勢向上と樹形管理を充実させることが必要です。



図31 桜の雲海イメージ

### ②「回遊性のあるお花見広場の整備」

平坦に造成された広場で、開花時期にはお花見広場として最も利用されるため、桜に囲まれたお花見広場を整備します。また、広場を周回する園路を活用した桜の景観づくりを検討します。



図32 お花見広場のイメージ（北側）

③「色とりどりのサトザクラが一齐に咲く、錦の桜の丘を創出」

サトザクラを活用し、開花時期をエリア全体でそろえて、ソメイヨシノの後にサトザクラが色とりどりに咲き誇り、二度目のお花見を楽しめる、錦の桜の丘を目指した整備を検討します。



図33 錦の桜の丘をイメージ

④「里山に咲く、ヤマザクラを楽しむ」

公園内の最奥に位置しており、静かな雰囲気があるエリアです。ヤマザクラや雑木を際立たせることで里山の落ち着いた雰囲気を演出します。



図34 里山に咲くヤマザクラのイメージ

表7 整備計画スケジュール

年	2022～2025	2026	2027	2028	2029～2031
実施内容	整備内容検討期間	基本計画	基本設計	実施設計	再整備

## 第2節 その他の拠点

観光資源となる桜について、本市の全域的な調査を行った結果、新しい桜の名所地として活用することが可能と考えられる場所や施設等があることが明らかになりました。

### 1 海浜エリア

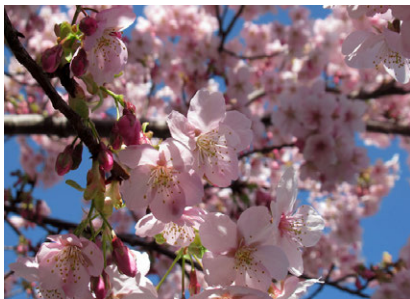
#### (1) おさかなセンター周辺

おさかなセンターや久慈サンピア日立、海沿いのなぎさ公園などを含めたエリアです。

なぎさ公園の丘状の緑地をこのエリアのシンボリックな景観となるよう演出し、潮風に強いオオシマザクラやタイリョウザクラ等の樹種を用いて、周遊コースを歩いて桜を楽しむような整備を検討します。



図3-5 新たな桜の名所創出イメージ（おさかなセンター周辺）



タイリョウザクラ  
(大漁桜)



原木は熱海市の網代漁業組合の網干場にあり、花色が鯛の色に似ているのでこの名がついたといわれています。オオシマザクラに似た性質で潮風に強い性質があります。

## (2) 東滑川ヒカリモ公園（正式名称：東滑川海浜緑地）

園内には、輝くヒカリモや美しい海に目を向けながらウォーキングを楽しめる散策路があり、最奥の美しい砂浜へつながっています。令和2（2020）年3月にオープンした大型複合商業施設「SEA MARK SQUARE（シーマークスクエア）」と歩道橋でつながり、一体的にウォーキングトレイルが楽しめる魅力的な立地となっています。

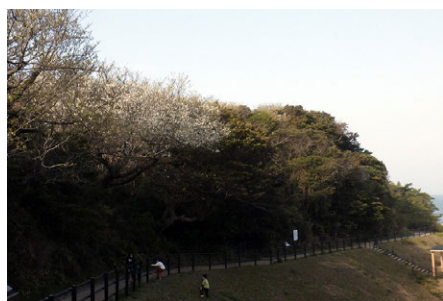
本園は海のそばにあり、複合型遊具が備えられていて、家族連れの利用も盛んです。

また、園内には潮風に強い桜（オオシマザクラ等）が生育していますが、常緑樹に日照を阻害されて樹形が伸びあがり、衰退している状況です。そこで、既存の桜の保全及び潮風に耐える品種を選び新規植樹を検討します。

さらに、ヒカリモやハマギク等と共生し、桜の保全や整備を行っていくことにより、自然豊かな公園の魅力向上につながる演出を検討します。



図36 商業施設と公園の一体的な利用



既存のオオシマザクラ



輝くヒカリモ

## 2 まちなかエリア

まちなかの駅前広場、学校、交流センター、地域を代表する桜と名所地などの状況を調査しました。今後、さくらのまち日立にふさわしい景観の創出につながるような整備を検討します。

### (1) 駅前広場・常磐道 I C 周辺

JR常磐線の各駅前広場や常磐道インターチェンジ周辺は本市の交通要所であり、市内外の人々が訪れる場所です。さくらのまち日立を印象付けるには欠かせない場所であるため、本市固有の桜である「日立紅寒桜」「おぎつやよい」「ひたち雅」を活用するなど、交通要所利用者を華やかに出迎える桜景観の創出を検討します。

#### ■ 現況写真

#### 日立駅



中央口駅前広場



海岸口駅前広場

#### 常陸多賀駅



駅前広場の日立紅寒桜



## (2) 学校・交流センター

小・中学校や交流センターには多くの桜が存在し、地域を代表する桜の名所と認識されている場所も多数ありますが、樹勢が衰えている桜も多く見られます。

これらの桜を次の世代に引き継ぐために、桜の特性や本市の桜の歴史を学ぶ機会や管理技能講習会の開催などを通じて、学校や交流センターの桜を守り育てる意識の醸成を図るとともに、衰えている桜の樹勢回復や更新を行うことを検討します。

### ■ 学校・交流センターの例

#### 助川小学校・大久保小学校



助川小学校（五代桜）



大久保小学校

#### 日高交流センター



日立紅寒桜



おぎつやよい

### (3) 地域を代表する桜と名所地

平成11年度に市制60周年記念事業として「私の好きな地域のさくら22選」を選出し、身近な桜に目を向ける機会を創出しました。

現在も地域の桜として受け継がれてはいるものの、選出から長い年月が経過し、桜の状況が変化しているものもあります。

地域の桜を次の世代に引き継ぎ、誇れるふるさとのシンボルとしての意識の醸成を図るため、各コミュニティの中から「わがまちの桜」を選出し、地域の桜を地域で守り育てる体制の構築を図るとともに、選出された桜が良好な樹勢を保つことができるような環境整備を検討します。

#### ■ 地域を代表する桜の例

##### 十王地区・本庁地区

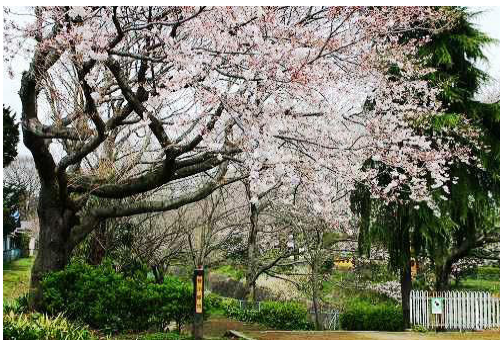


十王川沿い



消防拠点施設

##### 多賀地区・南部地区



桜川緑地



日立製作所日立研究所

### 3 奥山エリア

多賀山地に含まれるエリアで、地形は起伏に富んでおり、市街地に比べて標高が数百メートル高い地域です。

他の管理拠点が市街地に集中するため、奥日立の自然環境を生かした桜の名所づくりが必要です。

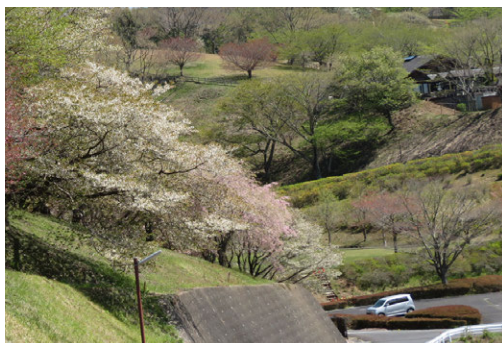
#### (1) 奥日立きららの里

「奥日立きららの里」は平成6（1994）年に開設した観光施設です。牧場跡地を活用した敷地は広大で、総面積はかみね公園の3倍以上となる約48haです。敷地には、平成3（1991）年に寄贈された桜800本が植樹されており、ソメイヨシノを中心として、ヤマザクラやサトザクラ系のほか、本市固有の桜である「日立紅寒桜」がまとまって植樹されているのが特徴です。

桜の開花が市街地より1週間から2週間遅く、市街地で桜が咲き終わった後でも桜の観賞ができるため、市街地とは異なる魅力があります。

施設内ではスライダーなど様々なアクティビティが提供されており、多くの来場者がありますが、施設内の桜の樹勢が衰えているものがあり、桜の魅力が十分に活かされていない状況です。

既存の桜の樹勢回復や更新及び新しい桜の植樹など、奥山の立地を生かした遅い時期まで楽しめる桜の名所の整備を検討します。



奥日立きららの里

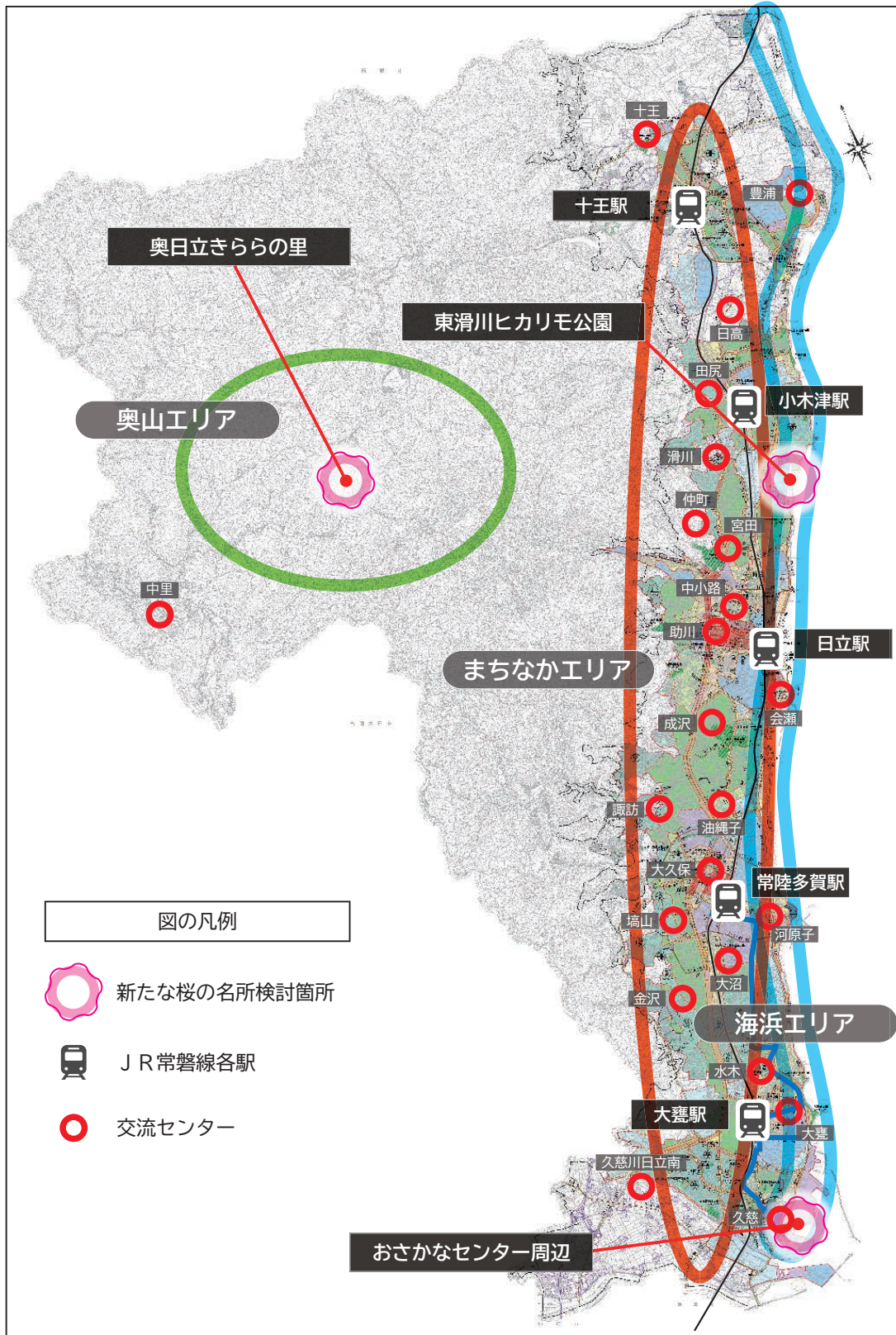


図37 その他の拠点位置図